



日本のまちかど

歴史と現代が交錯する城下町 水戸

徳川御三家の誇りと時代を先駆ける気風

水戸藩といえば、尾張、紀伊と並んで徳川御三家を成す名藩で「副將軍」「黄門さま」と呼ばれる第2代藩主水戸光圀でひろく知られています。家康の11男である徳川頼房を初代藩主として開藩したのが1609年なので、今年でちょうど400周年という歴史的な節目を迎えたことになりました。この水戸藩は幕政の中核にありながら表舞台に立つことなく、將軍を補佐する立場、副將軍といわれてその存在感を示し、「大日本史」の編纂に取り組んだ黄門さまに象徴されるように、学究肌で文教を重んじる気風をもって、当時の幕府の精神的支柱となってきました。

現在の水戸を歩いてみると、江戸時代より続く進取の気性に富んだ清廉な「文教都市」の名残りが今も伝わっていることに気づかされます。その代表的な存在が水戸城跡に隣接する藩校弘道館^{こうどうくわん}でしょう。藩士の子弟の教育の場として、儒学・武芸はもとより、医学・数学・天文学までも教えたという江戸期最大の藩校で、いまも敷地に一歩足を踏み入れただけで襟を正したくなるような凛とした空気を湛えています。国重要文化財の指定を受けた正門や正庁^{せいぢう}といった建築も、決して華美ではないものの簡素さのなかに風格が漂い、学究を掲げ所とする藩の誇りが宿っているように感じられます。ここには最

※1 正庁
正殿。藩主が臨席して重要な試験や諸儀式等が行われた。

UR都市機構の情報誌 ● ユーアールプレス

UR PRESS

vol.21
Autumn
2009

CONTENTS

02 日本のまちかど
歴史と現代が交錯する城下町 水戸
徳川御三家の誇りと時代を先駆ける気風



05 特集対談 **Think Now** 第2回
これからの地域と経済
地域と“知”の連携 そして人財づくり！
農林水産省大臣官房政策課 企画官 木村 俊昭 × 作家 幸田 真音



11 経済講座 第2回
“誇りある村”が地域を支え続ける
経済ジャーナリスト 財部 誠一

13 *TownScope* タウンスコープ 第2回
錦江湾に浮かぶ桜島—
在任3年で 第二のふるさとになった「鹿児島」
フリーアナウンサー 草野 仁

15 Theひと —日本の枝の匠—
「ものづくり日本大賞」受賞者を訪ねる
チタンで創る日本伝統の屋根
第2回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞受賞 (株)カナメ/ルーファシステム(株) 代表取締役 渡部 渉



17 URのしごと
水戸駅南口地区 (茨城県水戸市)
都市再生アドバイザー制度



21 URからのお知らせ

22 編集後記